

まほろば見学ツアー in 自然農園仁木農場

by 本店 小島侑子

札幌の本店を出発し観光客で賑わう小樽運河を通り、しばらくすると深いブルーの海が見える。バスは海岸線を走りながら、ただ目の前にどこまでも続く雄大な青い空と青い海を窓越しに眺め、その美しさに心がときめく。バスに揺られさらに進むと、さくらんぼやぶどうの木が広々連なる果樹園と景色を変え、今にも甘い香りが漂ってくるかのよう 笑

札幌から一時間半程の間にこれだけの景色を楽しめるのは北海道ならではの魅力なのかもしれない。



そう、この日は半期に一度のまほろば慰安会で、本店、厚路店とお店のお休みを頂いて従業員とその家族（夏休みに入ったばかりの子どもたち）でまほろば自然農園仁木農場を訪問しました。

畑で作業をしていた社長や顧問、農園スタッフの温かい出迎えを受け一年ぶりの仁木農場には、昨日届いたばかりだというまほろば自然農園仁木農場の素敵な看板。そして、その後ろには大根、トマト、きゅうり、なす、ピーマンをはじめへうげ味噌の原料となる豆や珍しいチベット大麦やレインボーコーンなど、沢山の野菜が育てられていて、色とりどりの野菜の花が咲いている畑。



大根抜き体験、醤油粕微生物酵素（前回のお便りに掲載）混ぜや宝探し、スイカ割り、植樹祭のお楽しみイベントがあり、子どもたちはも

ちろん、大人も童心に帰り夢中になって自然の恵みに触れる。お昼は農場のすぐそばを流れる余市川の河原でバーベキューをしながら団欒。

太陽の陽射しが降り注ぎ、きらきらと輝く水面、勢よく流れる清らかな川、セミの鳴き声、川に架かる鉄橋を列車が走る。この何とも言えない懐かしく長閑な風景の中、時間を忘れ、何も考えずただそこにいるだけ。

思わず裸足になって川に足を入れて大地を感じ、この素晴らしい大自然のパワーを全身に頂く。不思議と感じる安心感。とても贅沢で至福のとき♪



とときには自然の脅威で辛く悲しい思いや、大変な状況になることもあるけれど、人々の営みは自然の存在と決して切り離すことができないもので、当たり前にある空気や水、食物を育む土など、自然の恵みなくして私たちは生きて行けません。常に人間は自然と共に有るのだと改めて気づかされ、ただシンプルにこの豊かな自然をいつまでも大切にしていきたいと、心から感じた一日となりました。



「懐かしき未来」を垣間見た慰安会

（編集部 島田 浩）

小島さんの報告にありましたように、今年の慰安会は仁木農場脇の河原でバーベキュー大会となりました。仁木の自然に触れ、大根抜きや宝探しに興じる子供たちのイキイキとした目の輝きに、未来の希望を見た思いがしました。



最後の社長のお話でもまた、この自然に生かされることの深い意味合いや、誰もがみな自然へと立ち返

り、共に生きる小さな暮らしの実現へとむけて、まほろばの確実な一歩が始まっていることを実感させてくれました。「自然無くして私たちはありえない」というそのメッセージは、仁木で日々生きる生活から生まれた実感がこもっていて、強く胸に響くものでした。



まほろばだより
No.4524 17-107 8/4

会も終盤の頃、種蒔夫さんという方が飛び入り参加。今日こんなに大勢集まっているとはつゆ知らず、社長を訪ねてやってきました。かつて中学の美術教師をしていた彼は、お金中心の社会に失望し、やがて農業へと向かうことで心からの喜びを見出します。ところがトラクターの下敷きになり九死に一生を得た後、「生かされているこの命をどう使うか」を半年間模索した末、日本一周の種まきの旅を思いついたそうです。全国を旅しながら米（なんと福岡先生のハッピーヒル）と麦の種を人から人へと手渡し、自然への回帰を訴えていらっしゃいます。目標は全国一万人。この日一日でいっぺんに数がはけ、うれしい誤算の様子でした。（詳しくはブログ「種まく人ハッピーヒル」で検索下さい）



エリクサー当選発表

またこの日、厚路店 30 周年記念の抽選会が行われました。今回はハガキの方と抽選用紙に書かれた方と 2 種類の用紙がありましたので、公正を期し、社長と顧問にそれぞれの用紙から一枚選んでもらい、最後は二人のじゃんけんで決める方式をとらせて頂きました。

激闘（？）の結果、当選者は本店のお客様、ナガツカ様と決定いたしました。おめでとうございます！！ 社長から当選の電話をしていただき、喜びのお声をいただいています。また、エリクサーが特別価格で購入いただける権利の 5 名様も決定いたしました。後日改めてご本人様にご連絡させて頂きたいと思っております。みなさまのご参加、誠にありがとうございました。



エリクサー浄水器・ご当選者様
・西区 ナガツカ様
エリクサー特別価格購入権
・白石区 クドウ様他 5 名